

FY 2020 / JGP2020

2021年3月期 第2四半期 決算説明資料

2020年11月18日

株式会社日本製鋼所
代表取締役社長 宮内 直孝

JSW

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

注意書きが無い場合、「前回予想」は2020年9月18日に開示した数値です。

PART I

2021年3月期 第2四半期実績

- 05 受注高・売上高・利益の状況
- 06 営業利益増減要因
- 07 セグメント別
- 08 産業機械事業
- 09 素形材・エンジニアリング事業

PART II

2021年3月期 通期計画

- 11 受注高・売上高・利益の計画
- 12 営業利益増減要因
- 13 セグメント別
- 14 産業機械事業
- 15 素形材・エンジニアリング事業
- 16 設備投資・減価償却費、キャッシュ・フロー、財務体質、研究開発費の状況
- 17 受注残高の推移

PART III

中期経営計画「JGP2020」と事業概況

- 19 「JGP2020」と2030年のありたい姿
- 20 JGP2020 3つの基本方針(重点課題)
- 21 産業機械事業 主要製品の今期受注概況
- 22 素形材エンジニアリング事業 主要製品の今期受注概況
- 23 フィルム・シート製造装置
- 24 成形機
- 25 アフターサービス
- 26 素形材・エンジニアリング事業 「新生」への取組み
- 27 エンジニアリングサービス

- 28 新事業探索・育成 5分野における取組み
- 29 フォトニクス(結晶)事業について

参考資料(32~36):

事業セグメント変更の概要 / サブセグメント変更の概要 / 売上高・営業利益・純利益の推移 / 主要な財産状況・キャッシュ・フローの推移 / 日本製鋼所企業行動基準(2018年4月1日 改正)

事業セグメント	産業機械事業					素形材・エンジニアリング事業			その他事業
事業組織	樹脂機械事業部、成形機事業部、産業機械事業部、特機本部					日本製鋼所M&E			新事業推進本部
生産拠点	<p>広島 横浜 名古屋</p>   					室蘭			
製品	<p>【樹脂製造・加工機械】</p> <ul style="list-style-type: none"> 造粒機 フィルム・シート製造装置 二軸混練押出機 アフターサービス  <p>【成形機】</p> <ul style="list-style-type: none"> プラスチック射出成形機 マグネシウム射出成形機 中空成形機 アフターサービス   <p>【その他産業機械】</p> <ul style="list-style-type: none"> レーザアニール(ELA)装置 防衛関連機器 鉄道製品 ホットプレス ラミネータ 成膜装置 アフターサービス 					<p>【鑄鉄鋼製品】</p> <ul style="list-style-type: none"> 反応容器部材 (シエル、ヘッド他) 蒸気発生器部材 ローター軸 タービンケーシング 金型用鋼 製鉄用圧延ロール   <p>【クラッド製品】</p> <ul style="list-style-type: none"> クラッド鋼板 クラッド鋼管  <p>【エンジニアリングサービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> プラント・インフラ鋼構造物及び工事 非破壊検査・分析検査サービス   			<p>【新事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 航空機 水素 フォトニクス 機能材料 金属材料
市場	石油化学	産業機械	自動車	IT	防衛	電力・鉄鋼	石油・天然ガス	自然エネルギー	新事業



2021年3月期 第2四半期実績

PART I

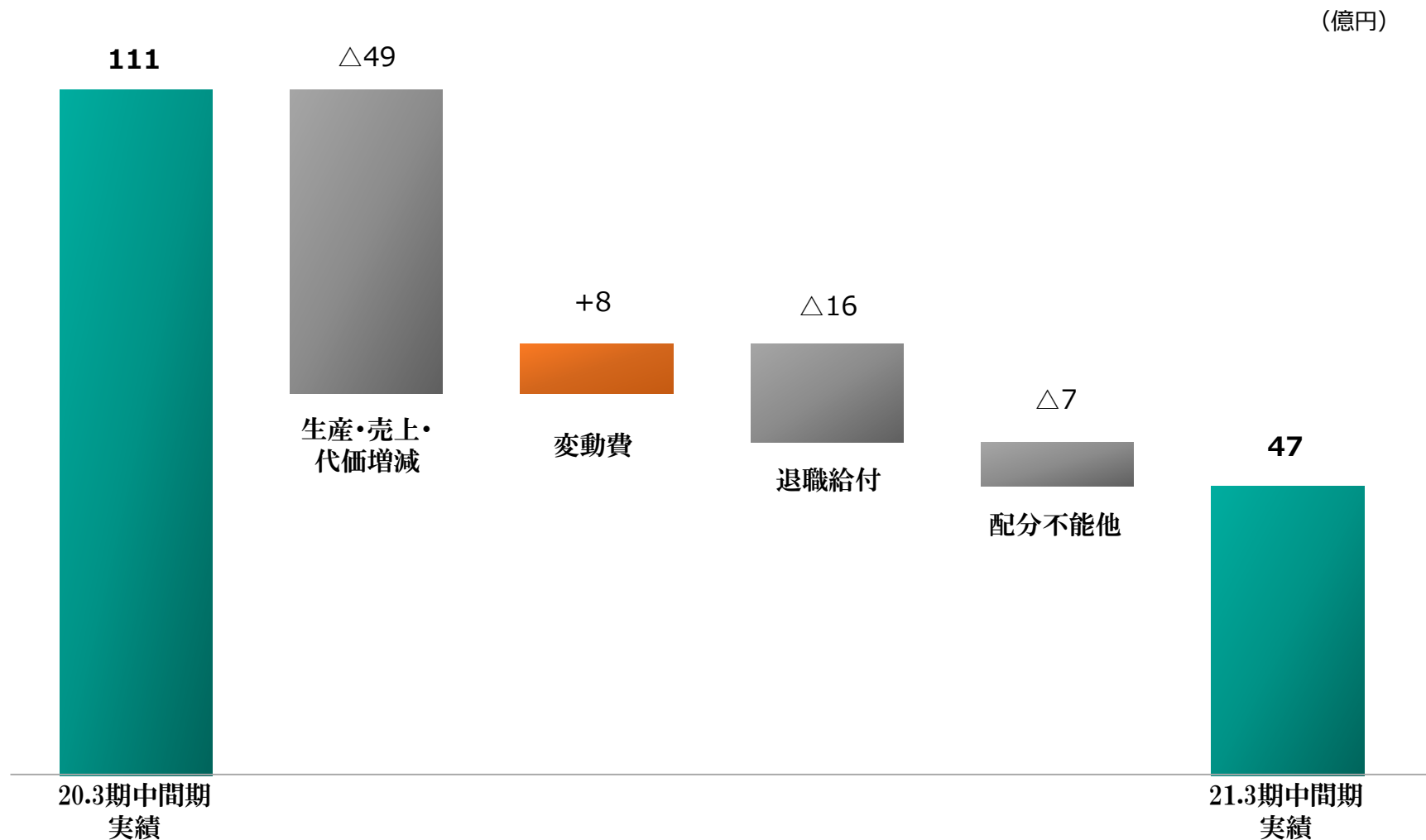


受注高・売上高・利益のいずれも前年同期比減。

(億円)

	20.3期 中間期 実績 (A)	21.3期 中間期 実績 (B)	前年同期比 増減額 (B)-(A)	21.3期 通期 修正予想 (C)	修正予想比 進捗率 (B)/(C)
受注高	1,128	785	△ 343	2,050	38.3%
売上高	1,062	901	△ 161	1,950	46.2%
営業利益 (率)	111 10.5%	47 5.2%	△ 64 △ 5.2%	100 5.1%	47.0% -
経常利益	121	50	△ 71	100	50.0%
純利益	52	35	△ 17	65	53.8%
1株当たり 純利益 (円)	70.82	48.69	△ 22.13	88.40	55.1%
1株当たり 配当金 (円)	27.5	17.5	△ 10.0	35.0	50.0%

生産・売上・代価増減や退職給付の影響により 64億円減益。



両セグメントとも、前年同期比で減収減益。

産業機械事業

	20.3期 中間期 実績 (A)	21.3期 中間期 実績 (B)	前年同期比 増減額 (B)-(A)	21.3期 通期 修正予想 (C)	修正予想比 進捗率 (B)/(C)
受注高	865	603	△ 262	1,530	39.4%
売上高	872	731	△ 141	1,520	48.1%
営業利益 (率)	107 12.3%	82 11.2%	△ 25 △ 1.1%	150 9.9%	54.7% -

(億円)

素形材・エンジニアリング事業

	20.3期 中間期 実績 (D)	21.3期 中間期 実績 (E)	前年同期比 増減額 (E)-(D)	21.3期 通期 修正予想 (F)	修正予想比 進捗率 (E)/(F)
受注高	249	167	△ 82	485	34.4%
売上高	174	159	△ 15	400	39.8%
営業利益 (率)	16 9.2%	2 1.3%	△ 14 △ 7.9%	15 3.8%	13.3% -

(億円)

売上高は成形機の不振により、前年同期比減
受注高は樹脂製造・加工機械、成形機、その他ともに前年同期比減。

	売上高・営業利益					受注高				
	20.3期 中間期 実績 (A)	21.3期 中間期 実績 (B)	前年同期比 増減額 (B)-(A)	21.3期 通期 修正予想 (C)	修正予想比 進捗率 (B)/(C)	20.3期 中間期 実績 (D)	21.3期 中間期 実績 (E)	前年同期比 増減額 (E)-(D)	21.3期 通期 修正予想 (F)	修正予想比 進捗率 (E)/(F)
樹脂製造・ 加工機械	313	292	△ 21	610	47.9%	343	208	△ 135	600	34.7%
成形機	345	235	△ 110	500	47.0%	291	218	△ 73	500	43.6%
その他	214	204	△ 10	410	49.8%	231	177	△ 54	430	41.2%
合計	872	731	△ 141	1,520	48.1%	865	603	△ 262	1,530	39.4%
営業利益	107	82	△ 25	150	54.7%					

受注高は、クラッド鋼板・鋼管が大きく影響し、前年同期比減。

売上高・営業利益

(億円)

	20.3期 中間期 実績 (A)	21.3期 中間期 実績 (B)	前年同期比 増減額 (B)-(A)	21.3期 通期 修正予想 (C)	修正予想比 進捗率 (B)/(C)
鍛造鋼品	95	95	0	205	46.3%
クラッド鋼板・鋼管	29	27	△ 2	110	24.5%
エンジニアリング他	50	37	△ 13	85	43.5%
合計	174	159	△ 15	400	39.8%
営業利益	16	2	△ 14	15	13.3%

受注高

(億円)

	20.3期 中間期 実績 (D)	21.3期 中間期 実績 (E)	前年同期比 増減額 (E)-(D)	21.3期 通期 修正予想 (F)	修正予想比 進捗率 (E)/(F)
鍛造鋼品	115	101	△ 14	210	48.1%
クラッド鋼板・鋼管	93	9	△ 84	180	5.0%
エンジニアリング他	41	57	16	95	60.0%
合計	249	167	△ 82	485	34.4%



2021年3月期 通期計画

PART II



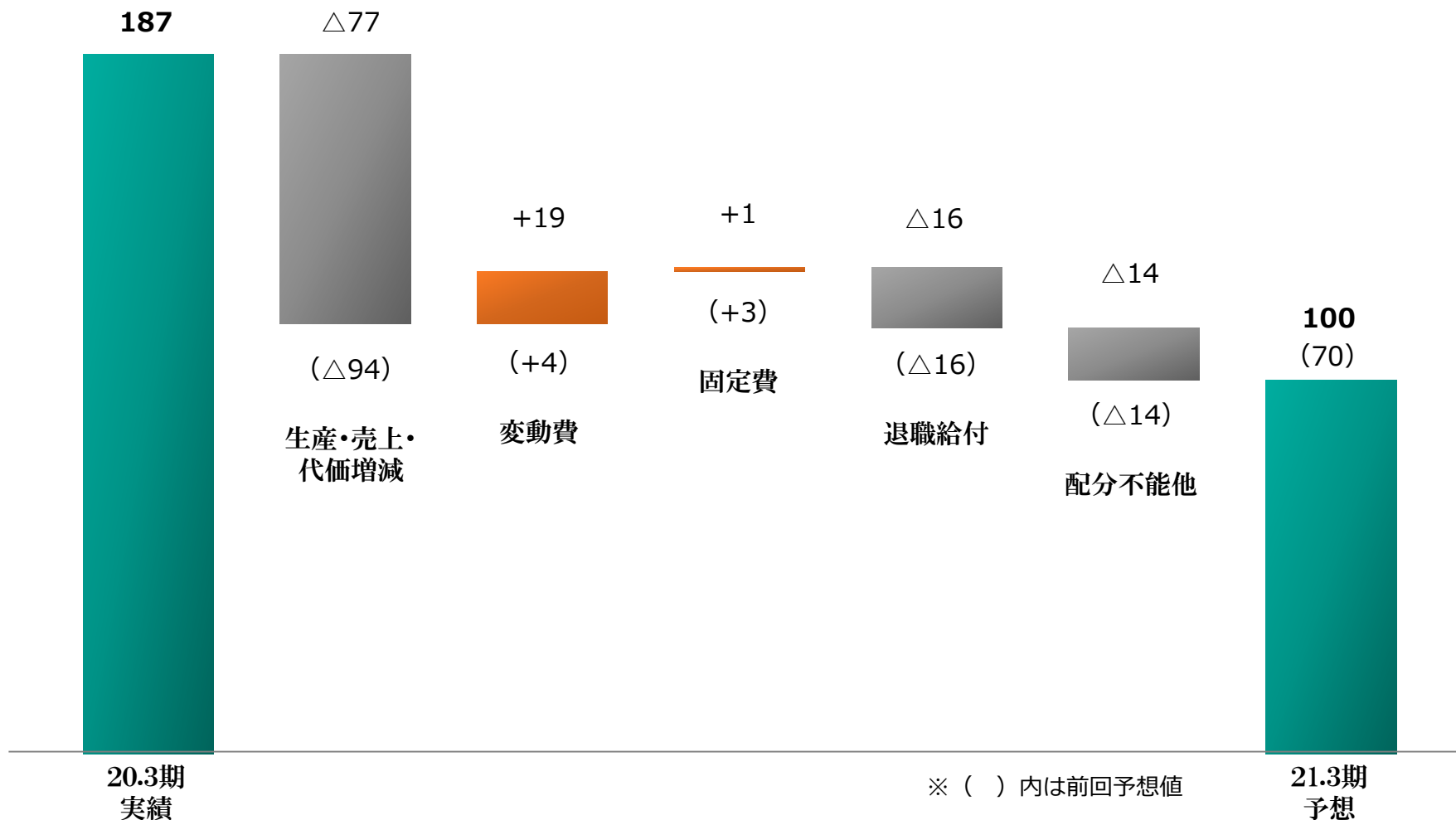
受注高・売上高・利益のいずれも前年比減を見込む。
 前回予想に対しては、上方修正。

(億円)

	20.3期 実績 (A)	21.3期 前回予想 (B)	21.3期 修正予想			前期比 (C)-(A)	前回予想比 (C)-(B)
			上期	下期	通期 (C)		
受注高	2,115	1,980	785	1,265	2,050	△ 65	70
売上高	2,175	1,900	901	1,049	1,950	△ 225	50
営業利益 (率)	187 8.6%	70 3.7%	47 5.2%	53 5.1%	100 5.1%	△ 87 △ 3.5%	30 1.4%
経常利益	199	70	50	50	100	△ 99	30
純利益	93	40	35	30	65	△ 28	25
1株当たり 純利益 (円)	126.66	54.38	48.69	39.71	88.40	△ 38.26	34.02
1株当たり 配当金 (円)	45.0	35.0	17.5	17.5	35.0	△ 10.0	0.0

生産・売上・代価増減や退職給付の影響等により87億円の減益を見込む。
 前回予想に対しては、30億円上方修正。

(億円)



前年比 減収減益を見込む。
産業機械については、受注・売上・利益とも前回予想より増加の見込み。

産業機械事業

(億円)

	20.3期 実績 (A)	21.3期 前回予想 (B)	21.3期 修正予想 (C)	前期比 (C)-(A)	前回予想比 (C)-(B)
受注高	1,626	1,470	1,530	△ 96	60
売上高	1,714	1,470	1,520	△ 194	50
営業利益 (率)	192 11.2%	115 7.8%	150 9.9%	△ 42 △ 1.3%	35 2.0%

素形材・エンジニアリング事業

(億円)

	20.3期 実績 (D)	21.3期 前回予想 (E)	21.3期 修正予想 (F)	前期比 (F)-(D)	前回予想比 (F)-(E)
受注高	462	485	485	23	0
売上高	428	400	400	△ 28	0
営業利益 (率)	27 6.3%	15 3.8%	15 3.8%	△ 12 △ 2.6%	0 0.0%

成形機の不振により、売上高・受注高・利益とも前年比減の見込み。
 前回予想より上方修正。

売上高・営業利益

	(億円)				
	20.3期 実績 (A)	21.3期 前回予想 (B)	21.3期 修正予想 (C)	前期比 (C)-(A)	前回予想比 (C)-(B)
樹脂製造・ 加工機械	613	610	610	△ 3	0
成形機	653	450	500	△ 153	50
その他	448	410	410	△ 38	0
合計	1,714	1,470	1,520	△ 194	50
営業利益	192	115	150	△ 42	35

受注高

	(億円)				
	20.3期 実績 (D)	21.3期 前回予想 (E)	21.3期 修正予想 (F)	前期比 (F)-(D)	前回予想比 (F)-(E)
樹脂製造・ 加工機械	608	590	600	△ 8	10
成形機	533	450	500	△ 33	50
その他	485	430	430	△ 55	0
合計	1,626	1,470	1,530	△ 96	60

売上高は前年比減、受注高は前年比増を見込む。

売上高・営業利益

	(億円)				
	20.3期 実績 (A)	21.3期 前回予想 (B)	21.3期 修正予想 (C)	前期比 (C)-(A)	前回予想比 (C)-(B)
鋳鍛鋼品	196	205	205	9	0
クラッド鋼板・ 鋼管	128	110	110	△ 18	0
エンジニアリン グ他	104	85	85	△ 19	0
合計	428	400	400	△ 28	0
営業利益	27	15	15	△ 12	0

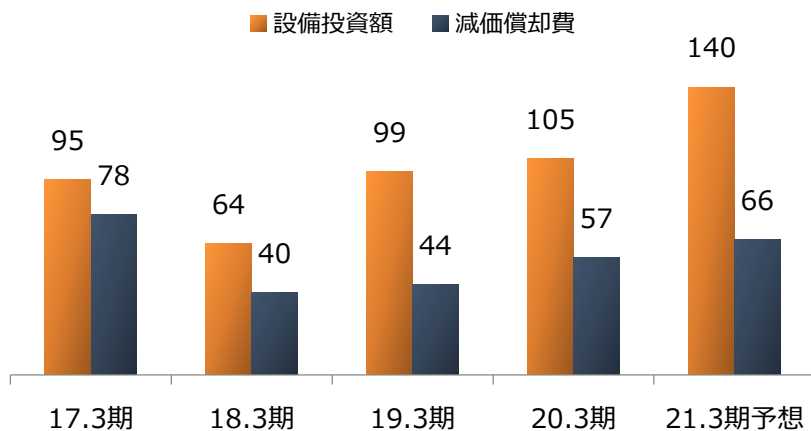
受注高

	(億円)				
	20.3期 実績 (D)	21.3期 前回予想 (E)	21.3期 修正予想 (F)	前期比 (F)-(D)	前回予想比 (F)-(E)
鋳鍛鋼品	229	210	210	△ 19	0
クラッド鋼板・ 鋼管	149	180	180	31	0
エンジニアリン グ他	84	95	95	11	0
合計	462	485	485	23	0

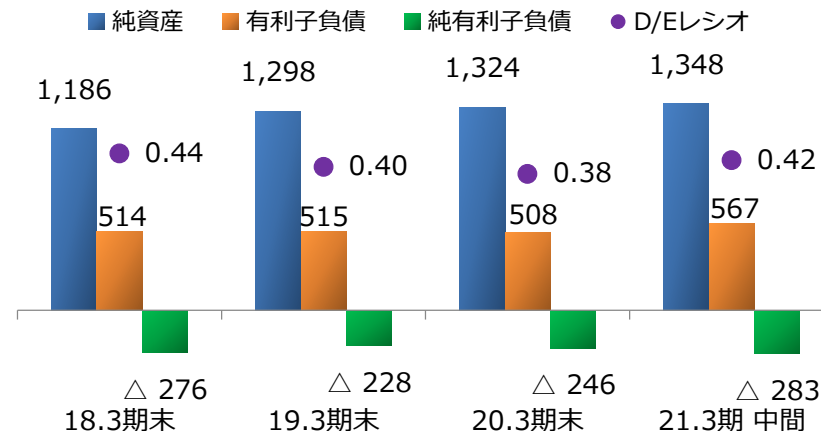
2021年3月期:設備投資・減価償却費、キャッシュ・フロー、財務体質、研究開発費の状況

(億円)

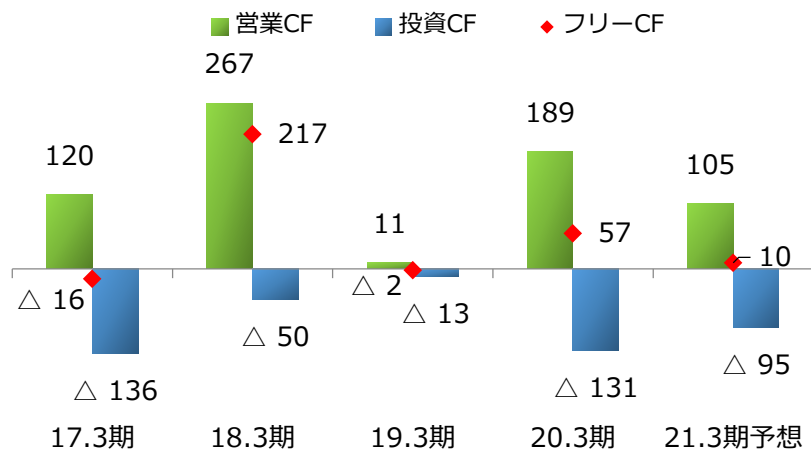
設備投資・減価償却費の状況



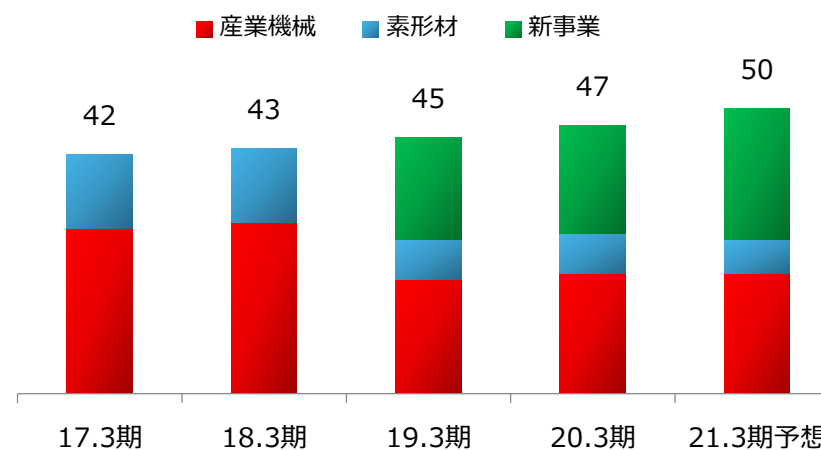
財務体質の状況



キャッシュ・フローの状況



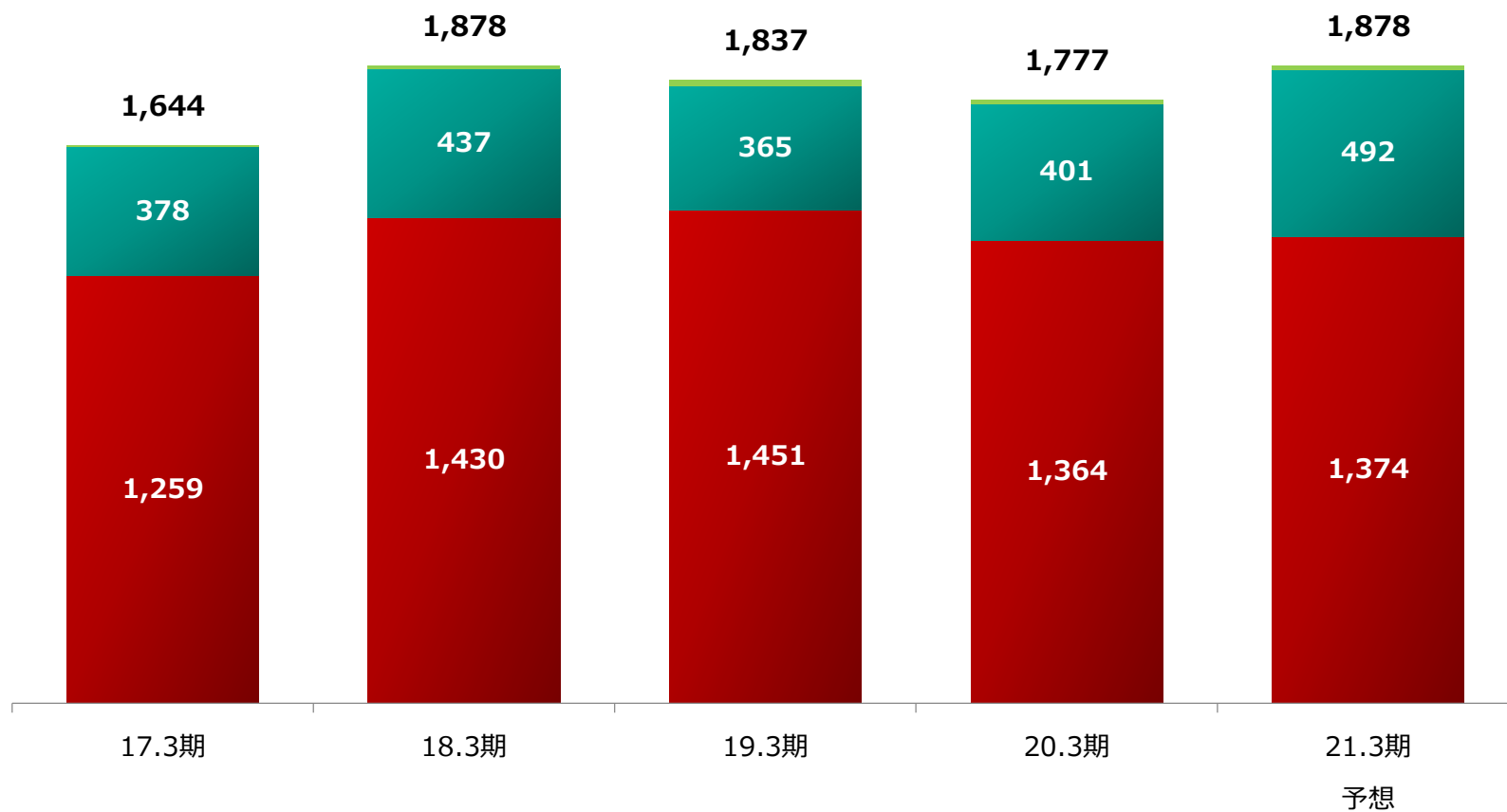
研究開発費の状況



セグメント別 受注残高の推移

(億円)

■ 産業機械 ■ 素形材 ■ その他





中期経営計画「JGP2020」と事業概況

PART III



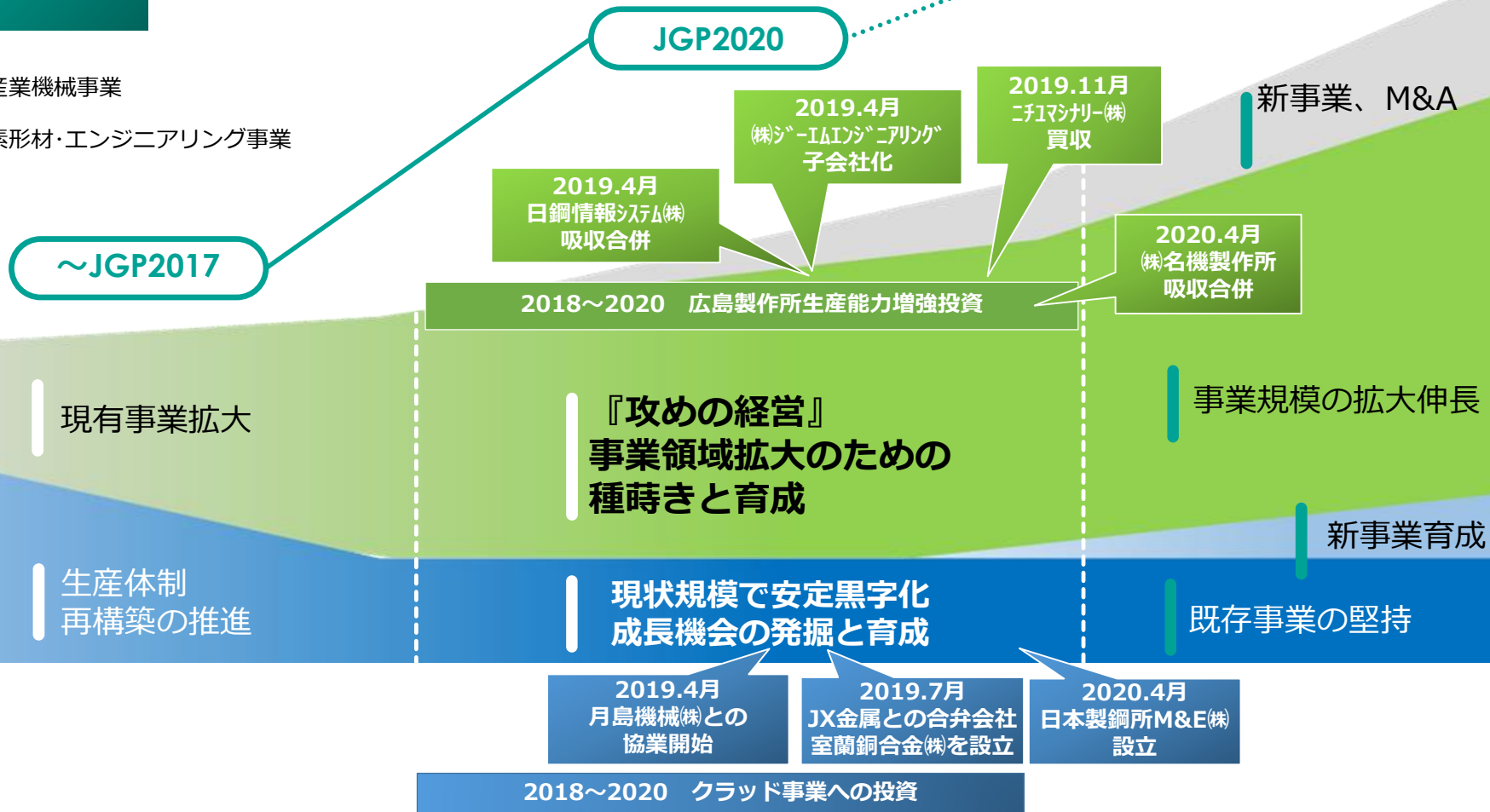
JGP2020

新たな成長基盤の整備

「次の10年」でJSWグループの確実な成長を実現させるための基盤整備

→ FY2030

- 産業機械事業
- 素形材・エンジニアリング事業



JGP2020 ~2030年を見据えた基盤作り~

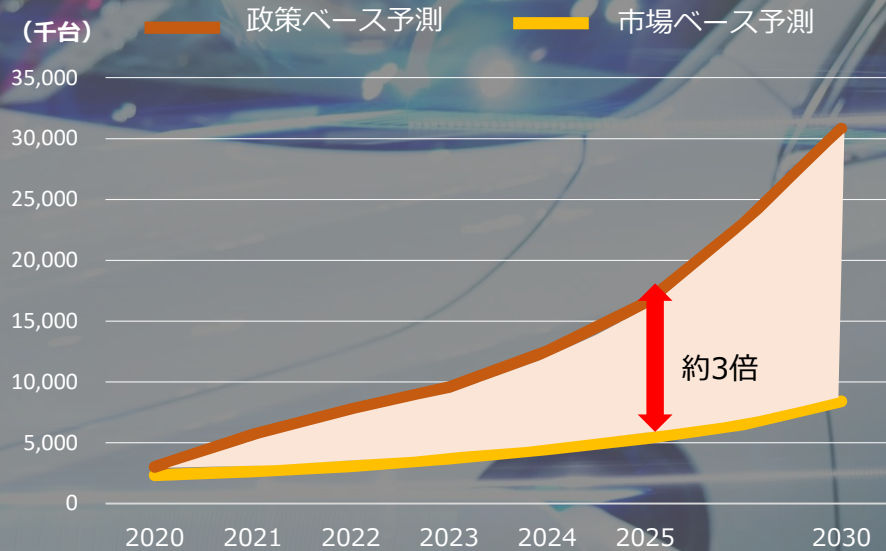
◆産業機械事業で「成長」、素形材・エンジニアリング事業は「新生」 2021年3月期第2四半期までの成果

<p>①経営資源の最適化と アライアンスの強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ プラスチック加工機コンプレックスの拡大 (株)ジーエムエンジニアリング、ニチュマシナリー(株)の子会社化 (株)名機製作所吸収合併 ✓ 素形材・エンジニアリング事業を分社化 (日本製鋼所M&E(株)設立) ✓ 月島機械(株)との協業 ✓ JX金属との合弁会社設立
<p>②アフターサービス (ストック型ビジネス)の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 広島製作所にアフターサービス専用工場を新設中 ✓ 欧州に成形機部品センターを設置
<p>③新事業探索、育成の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 5分野について推進室を立ち上げ、事業化を推進

産業機械事業	景況感 (9/18⇒11/18)	受注環境
フィルム・シート製造装置		コロナウイルスの影響により悪化した市況は回復の兆し。セパレータ用途については回復基調。
造粒機		中国を中心に高い水準での市況が継続。
二軸混練押出機		昨年からの景気低迷による市況悪化にコロナウイルスの影響が加わり不透明な受注環境だが、徐々に引合は増加。
成形機		昨年からの景気低迷による市況悪化にコロナウイルスの影響が加わり厳しい受注環境にあったが、回復が見込まれる。
FPD装置		中国を中心にスマホ需要は回復傾向にあるが、設備投資までには至っておらず、FPD市場の回復は来期以降を見込む。
アフターサービス		第1四半期はコロナウイルスの影響を大きく受けたが、受注環境は徐々に回復が見込まれる。

素形材・エンジニアリング事業	景況感 (9/18⇒11/18)	受注環境
<p>鋳鍛鋼品</p>		<p>コロナウイルスの影響により市況の厳しさが続く。</p>
<p>クラッド鋼板・鋼管</p>		<p>原油価格下落の影響による天然ガスプロジェクトの遅れで、大口工事の受注が翌期へずれる懸念。</p>
<p>エンジニアリング他</p>		<p>コロナウイルスの影響で不透明な状況にあるが、プラント改修工事は堅調。</p>

EV車（PHEV+EV）の生産台数予測



出所：(株)矢野経済研究所「2020年版 車載用リチウムイオン電池市場の現状と将来展望 1 ST HALF REPORT」(注)をもとに当社作成

政策ベース予測と市場ベース予測で大きく差はあるが、この範囲内で推移。

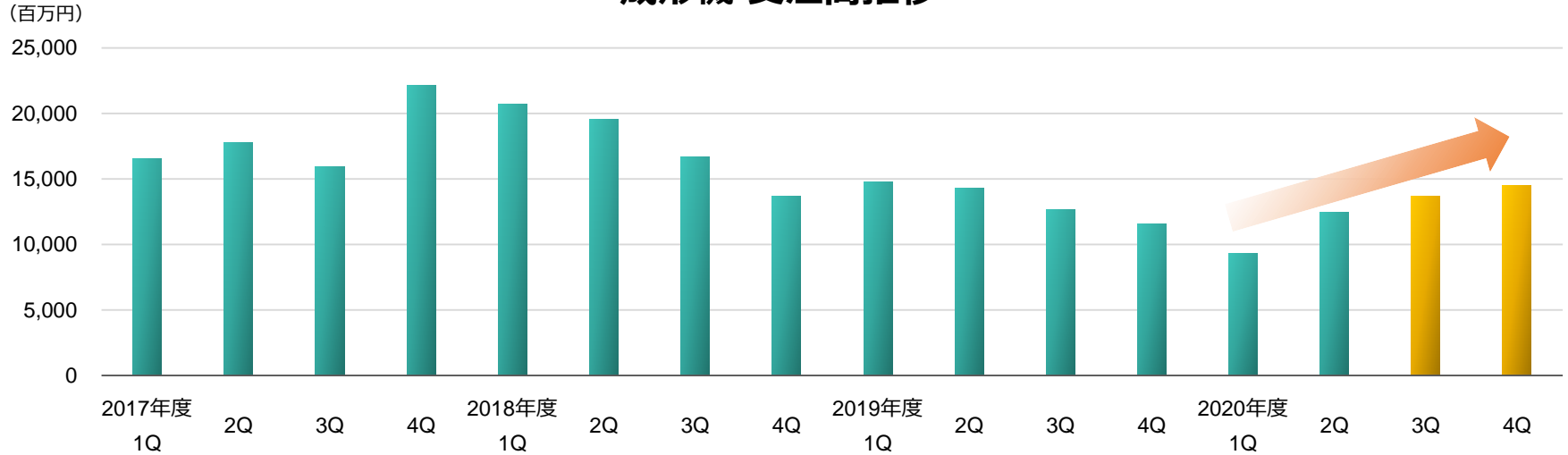
注) 2020年は見込値・2021年以降は予測値(2020年7月現在)、メーカー生産数量ベース、PHEV、EVともに、商用車(バス、トラック、物流車、特殊用途のミニバンなど)を含む。政策ベース予測は、世界的な環境規制強化の動きと、各国の普及政策、自動車メーカー各社の電動化シフトを背景に、2020年も欧州を中心にxEV市場が成長を維持するシナリオ、市場ベース予測は、使い勝手の良さや車両価格の求めやすさなどの消費者側のニーズを背景に、新型コロナウイルスの影響による経済の減退を受け、2020年のxEV市場も前年割れで推移するシナリオで予測する。

当社の取り組み

- 1 高品質化への対応強化
：お客様と共に電池の高密度化に対応した設備の開発を図る
- 2 既設機増大に伴い、メンテナンス対応力を強化



成形機 受注高推移



市場動向

国内

1Qを底に緩やかに回復

- 自動車分野は、EV車や排ガス規制への本格的対応に伴い、3Q以降に回復。

海外

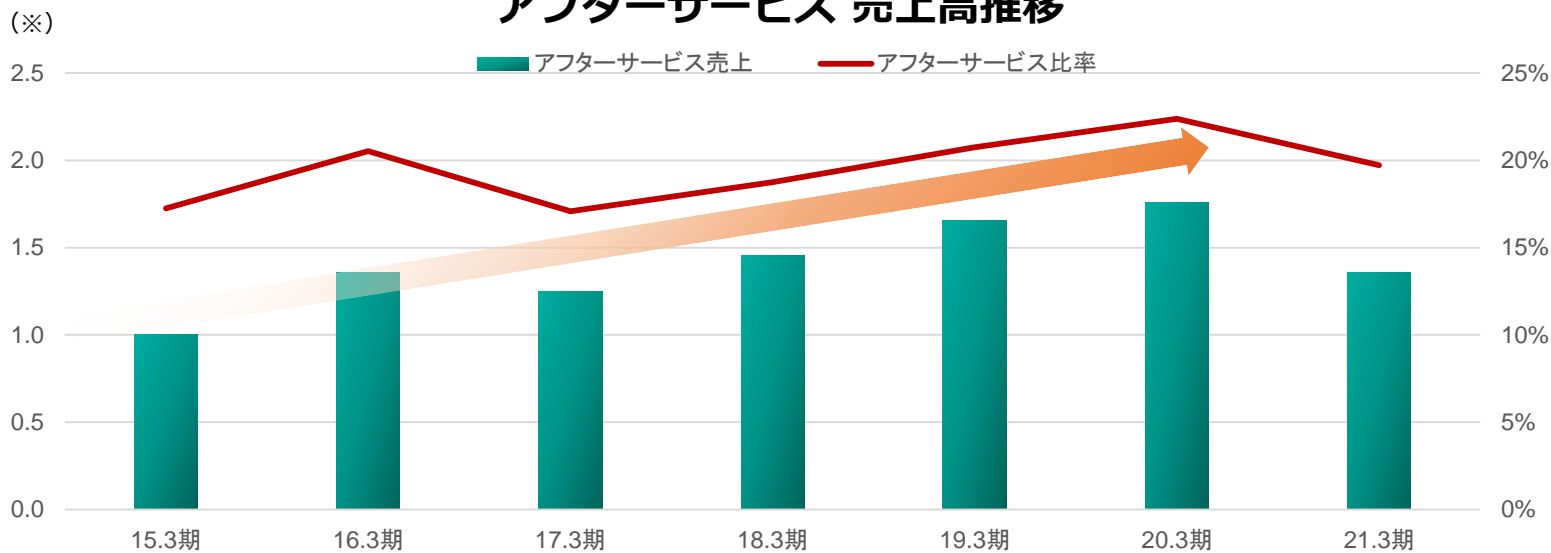
地域によって回復状況に濃淡

- 中国・台湾およびASEAN一部：電子部品が好調、医療・容器も堅調。
- 北米：3Qより回復の兆し。
- 欧州：回復まで時間を要しているが、コロナ終息後、自動車分野での投資拡大が予想。

当社の取り組み／ターゲット市場

- 1 在宅需要による日用品・雑貨分野の取り込み強化
- 2 自動車分野をターゲットに、
 - ① 大型機の新シリーズ投入
 - ② 超大型2プラテン機のシリーズ化
 - ③ 大型マグネシウム成形機の投入
- 3 中国・北米において、現地生産機の供給能力を拡大

アフターサービス 売上高推移



※15.3期の売上高を1とした場合の指数

事業特性



機械本体の累積納入台数に比例して伸長。
施策により更に売上アップを狙う。

当社の取り組み

- ① 高いサービスレベルの提供
(アフターサービス専用工場の新設、機器の納入台数が増加する中国に現地サービス員増強 等)
- ② ソリューション提案・提供
- ③ リモート対応の拡充

事業ポートフォリオの再構築による収益基盤の強化

新生

鍛鋼品

製品ポートフォリオを転換、
対応製品を拡充。

素形材・エンジニアリング
事業の再編を行い、新会社
日本製鋼所M&E(株)を設立。
(2020年4月)

エンジニアリング・ サービス

プラント・インフラ構造物や
工事、メンテナンス、試験・
検査事業を第3の柱に。

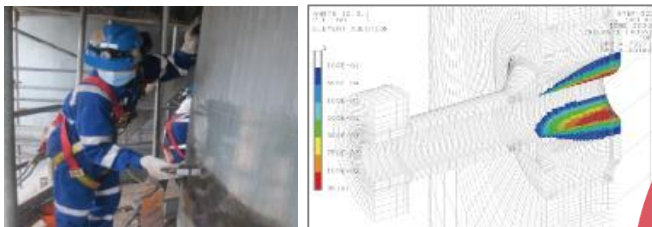
クラッド製品

効率化投資により、伸長が期
待される「強い製品」を更に
強化。

これまで取り組んできた設計、製作・施工から検査・修繕・保守等、
多様な技術を集約した総合エンジニアリングサービスを提供。

メンテナンス

石油精製・石油化学プラントでのメンテナンス
溶接補修／保全提案／材料評価・寿命評価



検査サービス

一般的な非破壊検査から
最新の検査手法まで
プラント設備の検査



Engineering
Service

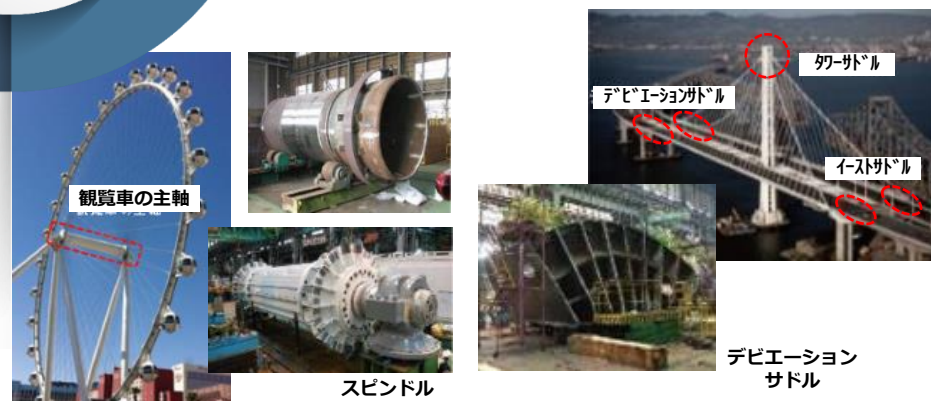
総合建設

建設・土木・緑化工事など幅広く施工

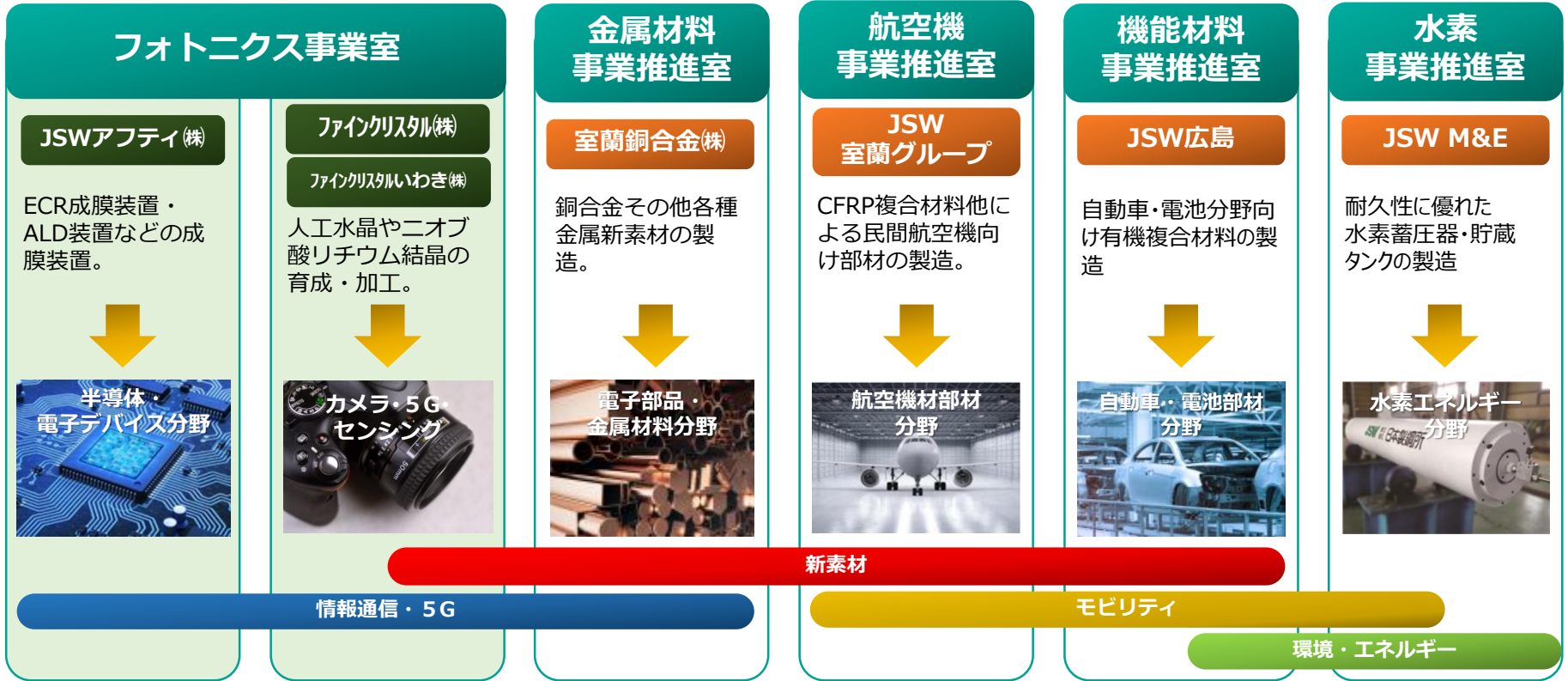


溶接構造物製造

橋梁部材から産業用など、
様々な分野での溶接構造物の製造



5分野につき推進室を立ち上げ“事業化”を推進中。



メガトレンド

人口の増加と構造変化
都市化の進行

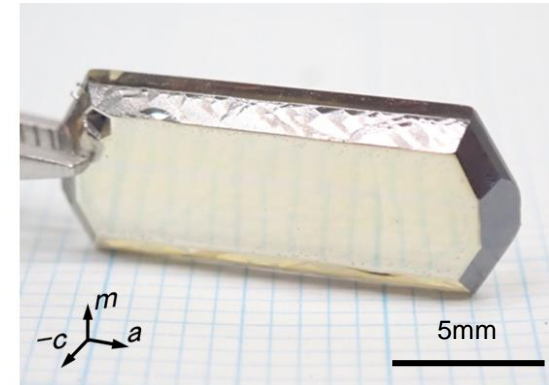
テクノロジーの進歩

気候変動と資源不足

**メガトレンドを踏まえた未来の社会課題の解決に貢献。
社会の持続的成長に貢献し、サステイナブルな企業価値向上を実現。**

▶ 窒化ガリウム単結晶基板の量産法を開発

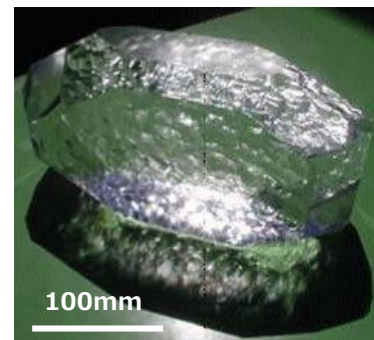
- 東北大学・三菱ケミカル(株)と共同で、2インチ以上の単結晶基板の量産が可能な結晶作製法を開発。
- 更なる大口徑高品質基板の供給により、次世代パワーエレクトロニクスの実現につなげる。



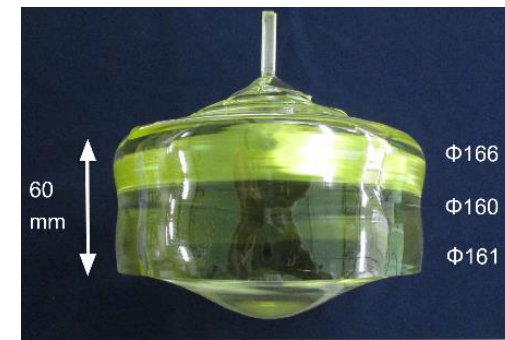
種結晶上に成長させたGaN結晶

▶ 「水晶」「LN結晶」を中心に情報通信分野の発展に貢献

- 中国の関連会社でデジタルカメラ用光学ローパスフィルタの本格量産を開始。
- 光通信・センシング分野のデバイス材料として各種結晶基板の供給体制を5年以内に構築。



人工水晶の製造



ニオブ酸リチウム (LN) 結晶の製造

A hand is shown in a dark, monochromatic setting, pointing its index finger towards a circular button. The button has the words 'FUTURE' and 'START' written on it, separated by a horizontal line. The background is a dark, textured surface.

FUTURE
START

JSW 日本製鋼所



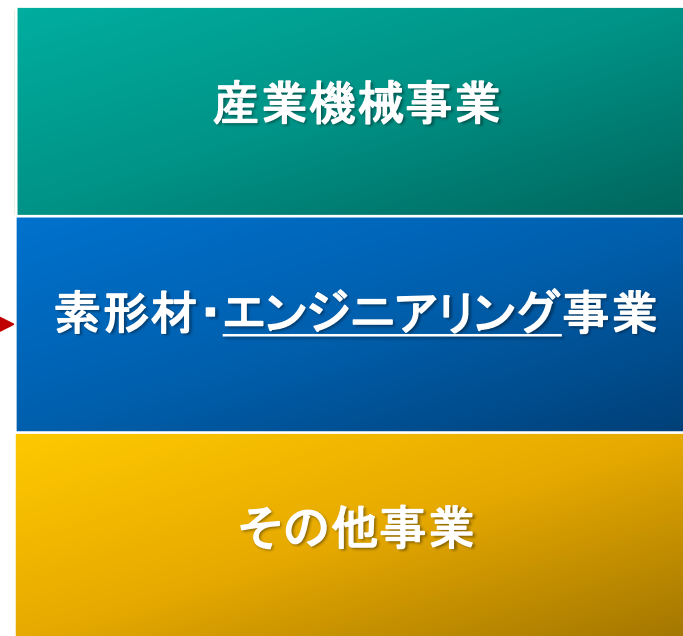
参考資料



2020年3月期まで



2021年3月期から



風力発電機
保守

2020年3月期まで

産業機械事業
樹脂製造・加工機械
成形機(連結)
FPD装置(連結)
その他
連結会社他

ジーエムエンジニアリング社
ニチユマシナリー社
SM Platek 社

2021年3月期から

産業機械事業
樹脂製造・加工機械
成形機
その他

※ジーエムエンジニアリング社： シート製造装置メーカー。
ニチユマシナリー社： 巻取機メーカー。
SM Platek 社(韓国)： 二軸混練押出機メーカー。

素形材・エネルギー事業
鋳鍛鋼品
クラッド鋼板・鋼管
連結会社他

石油精製用圧力容器

素形材・エンジニアリング事業
鋳鍛鋼品
クラッド鋼板・鋼管
エンジニアリング他

風力発電機
保守

その他事業

その他事業

売上高・営業利益・純利益の推移

(億円)

	15. 3期	16. 3期	17. 3期	18. 3期	19. 3期	20. 3期	21. 3期 (予想)
売上高	1,946	2,233	2,124	2,129	2,201	2,175	1,950
産業機械事業	1,263	1,443	1,593	1,702	1,736	1,714	1,520
樹脂製造・加工機械	325	364	361	502	525	569	610
成形機	536	564	576	645	727	653	500
FPD装置	-	-	-	-	164	114	-
その他	250	326	468	370	204	225	410
連結会社	152	189	188	185	116	153	-
素形材・エンジニアリング事業	662	748	512	408	412	414	400
鋳鍛鋼品	-	-	-	-	-	223	205
電力・原子力	274	192	193	172	125	-	-
石油精製用圧力容器	42	14	17	10	-	-	-
クラッド鋼板・鋼管	162	393	135	70	130	128	110
エンジニアリング他	-	-	-	-	-	-	85
風力発電機	57	12	39	16	-	-	-
その他	70	69	53	55	95	-	-
連結会社	57	68	75	85	62	63	-
その他事業	20	40	18	17	52	46	30
営業利益	75	144	123	213	242	187	100
産業機械事業	113	124	151	238	235	192	150
素形材・エンジニアリング事業	△ 39	7	△ 28	△ 15	26	24	15
その他事業	9	20	9	8	3	△ 1	△ 5
純利益	△ 53	△ 166	△ 49	107	199	93	65

※21.3期より、集計区分を変更。

- ・「産業機械事業」の「連結会社」としていた3社(ジーエムエンジニアリング社、ニチユマシナリー社、SM Platek社)を「樹脂製造・加工機械」に変更。
- ・「産業機械事業」の「FPD装置」「その他」「連結会社」を「その他」に変更。
- ・「素形材・エンジニアリング事業」の「鋳鍛鋼品」のうちの石油精製用圧力容器と、「その他事業」のうちの風力保守業務を、「素形材・エンジニアリング事業」の「エンジニアリング他」に変更。

主要な財産状況・キャッシュフロー等の推移

(億円)

	15.3期	16.3期	17.3期	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期 (予想)
総資産	3,196	2,931	2,753	2,974	3,055	2,971	-
産業機械事業	1,084	1,243	1,237	1,281	1,500	1,499	-
素形材・エンジニアリング事業	1,114	602	375	403	393	393	-
その他事業	130	120	118	117	146	80	-
純資産	1,382	1,113	1,075	1,186	1,298	1,324	-
1株あたり純資産額(円) ※17.3期以降は株式併合後	368.81	299.41	1,446.44	1,592.47	1,746.91	1,778.94	-
自己資本比率(%)	42.7	37.5	38.6	39.3	42.0	44.0	-
自己資本利益率(%)	△3.9	△13.5	△4.6	9.6	16.3	7.2	-
営業活動によるキャッシュフロー	115	197	120	267	11	189	-
投資活動によるキャッシュフロー	△26	△121	△135	△50	△13	△131	-
財務活動によるキャッシュフロー	△29	47	△12	△24	△37	△61	-
現金及び現金同等物の期末残高	491	614	586	778	738	744	-

日本製鋼所グループは、持続可能な社会の実現を目指す企業として、次の10原則に基づき、国の内外において、全ての法律、国際ルール及びその精神を遵守するとともに、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていく。

1. 持続可能な経済成長と社会的課題の解決を図るために、イノベーションを通じて、社会に有用で安全性に配慮した製品・技術・サービスを開発・提供する。
2. 公正かつ自由な競争に基づく適正な取引、責任ある調達を行う。また、政治、行政とは健全な関係を維持する。
3. 企業価値向上のため、適切な企業情報を積極的かつ公正に開示し、幅広いステークホルダーとの建設的な対話を行う。
4. 全ての人々の人権を尊重する。
5. 市場や顧客のニーズを製品・技術・サービスに反映した上で、顧客からの問い合わせ等に速やかに対応することにより、社会と顧客の満足と信頼を獲得する。
6. 従業員の多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現し、良好な職場環境を確保する。
7. 環境問題への取り組みは企業としての重要な責務であることを認識し、主体的に活動する。
8. 企業市民として、社会に参画し、その発展に貢献する。
9. 市民社会や企業活動に脅威を与える反社会的勢力やテロ、サイバー攻撃、自然災害等に対して、組織的な危機管理を徹底する。
10. 経営トップは、この行動基準の精神の実現が自らの役割であることを認識し、実効あるガバナンスを構築した上で、当社および関連会社に周知徹底を図り、あわせてサプライチェーンにも本行動基準の精神に基づく行動を促す。
また、本行動基準の精神に反し、社会からの信頼を失うような事態が発生した時には、経営トップが率先して問題解決、原因究明、再発防止等に努め、その責任を果たす。